

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	22-042	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Self-reported alcohol consumption of pregnant women and their partners correlates both before and during pregnancy: A cohort study with 21,472 singleton pregnancies 妊娠中の女性とそのパートナーの自己申告によるアルコール摂取量は、妊娠前と妊娠中の両方で相関する		
<b>執筆者</b>		
Voutilainen T, Rysa J, Keski-Nisula L, Karkkainen O.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Clin Exp Res. 2022 May; 46(5): 797-808. doi: 10.1111/acer.14806.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
アルコール、アルコール依存症、胎児性アルコールスペクトラム障害	35569108	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b> 妊娠中の女性およびパートナーのアルコール摂取量の関連について、妊娠前および妊娠中にて検討した。</p> <p><b>方法:</b> 2009-2018年、フィンランドのクオピオ大学病院で実施された単胎妊娠を対象としたコホート研究の参加者のうち 14822人の妊娠女性およびそのパートナーを本研究の対象とした。妊娠前および妊娠中のアルコール摂取量を調査した。なお、欠損データは、予測平均マッチング法にて多重代入を行った。</p> <p><b>結果:</b> 妊娠女性の飲酒者の割合は、妊娠前 86%、妊娠中 4.5%と妊娠中に著しく減少した。一方、パートナーの飲酒者の割合は妊娠前と妊娠中で変化はなかった。また、妊娠女性の 26%が、妊娠を認識した時点で飲酒をやめていた。妊娠女性とパートナーのアルコール使用障害識別テストの合計スコア (<math>rs=0.69, p&lt;0.0001</math>)およびアルコール摂取量 (<math>rs=0.56, p&lt;0.0001</math>)は、妊娠前において強く関連した。同様に、妊娠中において検討したところ、飲酒頻度 (<math>rs=0.20, p&lt;0.0001</math>)およびアルコール摂取量 (<math>rs=0.18, p&lt;0.0001</math>)における関連は有意ではあるものの弱かった。</p> <p><b>結論:</b> 妊娠前に両親のアルコール摂取量を評価することは出生前のアルコール暴露リスクがある女性を特定するために役立つ可能性がある。また、パートナーのアルコール摂取の減量を促すことは、妊婦のアルコール摂取量の減少に役立つ可能性が示唆される。</p>		